



みやぎの明治村 とよま資料館だより

登米市歴史資料館・高倉勝子美術館
発行/㈱とよま振興公社
〒987-0702
宮城県登米市登米町寺池桜小路2-1
Tel: 0220-52-5566
Fax: 0220-52-2630



発行日 令和5年 11月 10日

◀ 登米懐古館編 ▶ 第12号



図1 旧登米懐古館～城址公園・南端～令和元年5月

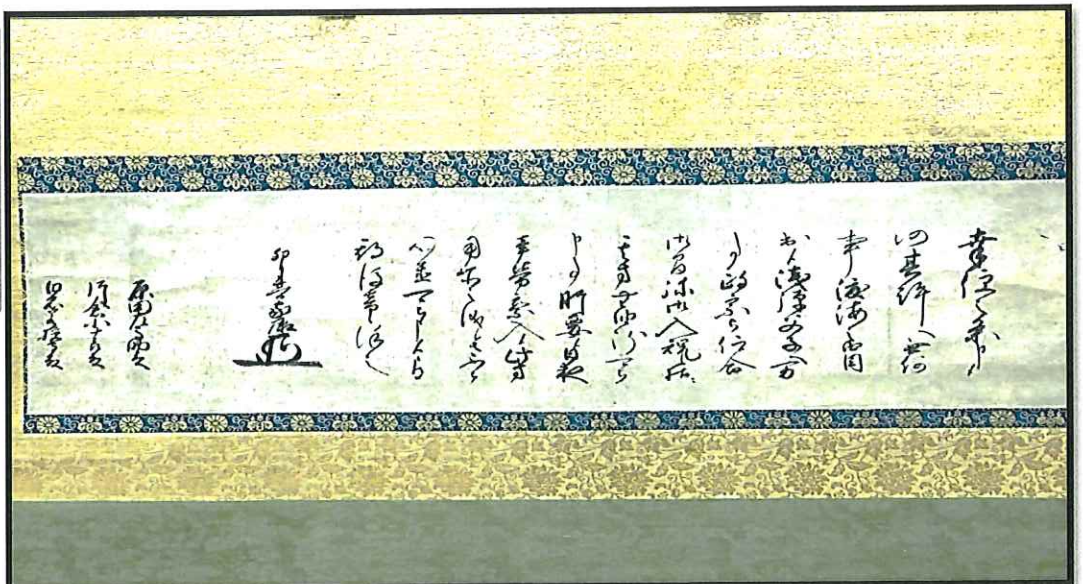
図2 新登米懐古館 令和元年9月開館

登米懐古館誕生

昭和36年10月、登米懐古館は登米町名誉町民だった渡邊政人氏(実業家)により建設され、登米伊達家に関わりのある歴史資料や郷土にゆかりのある貴重なものを寄贈して頂きました。(図1)

渡邊政人氏は、“郷土への奉仕”ということ自身の中で大切にしていた方です。そして、郷里に「登米懐古館の建設」また「懐古館収納の文化財(伊達家に由緒ある刀剣、鎧、書画、陶器類)」をできるかぎり収集しました。そして懐古館は58年の歴史を閉じ、令和元年9月、新懐古館(図2)に引継がれたのです。

唯一無二の
歴史史料
徳川家康書状
(伝登米伊達家旧蔵)
(図3)



東照宮は徳川家康のことです。書状は、朝鮮出兵 文禄の役の時、文禄2年(1593)に徳川家康から伊達政宗の家臣に宛てたものです。(図3)書簡左側には、右から原田左馬之助(伊達家累世の宿老家)、片倉小十郎(政宗の守役)そして白石若狭守(登米伊達家の始祖とされ初代宗直の養父)3名の家臣の名が書かれています。政宗にとっては、かけがえのない最も信頼のおける家臣でした。

御書翰の大意は、異国での困難な戦いで常に政宗を支えてくださいという内容です。このことは、家康が将来の政宗に対して人望を抱いていたのではないかと思います。右の(図4)は、「白石若狭守裏書在」とあり 登米伊達家二代となる白石若狭宗貞の書が掛軸の裏に有ると書かれた箱書きです。(図5)は掛軸の裏に表具した文言です。

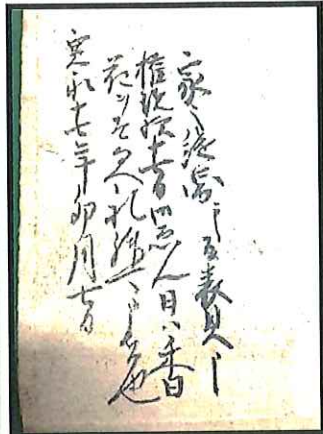


図4 箱書きの書
図5 [登米伊達家代々受け継ぐ書を表具した。権現様(徳川家康)の命日17日にこれを掛け礼拝すべきものである。]と記されています。

花鳥図

(侍従光宗公御書)

画 伊達光宗



こちらの絵画(掛軸)は、伊達光宗(寛永4年1627～正保2年1645)が描いた花鳥図です。この絵は、鳥と草花が一番の主演としたところその端麗な姿がよく伝わってきて光宗の聡明な人格が窺えると思います。

光宗は、2代藩主忠宗と正室振姫との間に生まれた嫡子です。寛永4年(1627)江戸で生まれ、寛永16年(1639)江戸城において元服、將軍家光の一字を賜り光宗と名乗り、將軍家や大名そして仙台藩士から大きな期待を寄せられていました。しかし病に倒れ正保2年(1645)19歳で死去しました。嫡子光宗を失った忠宗のその悲しみと落胆は、いかばかりかであったでしょう…。松島、瑞巖寺の近くに桃山形式の端正な廟、円通院を建立して光宗の冥福を祈りました。

参考文献:「仙台市史 通史編3」(近世1)

「みちのくの指導者、凛たり」

伊達宗弘 著

次号の告知

次号は《伝統芸能伝承館「森舞台」編》で、来年2月に発行予定です。

「森舞台」では、昭和45年の地元八幡神社への奉納能楽の復活で再生し、以来秋祭りの宵祭で、「薪能」として演能されてきました。

能は、旧藩から伝えられた大倉流と登米伊達家における独自の儀法などを保持しながら伝統を守ってきました。

＜イベント情報＞ R5.9(月)～12.22(金)

登米懐古館 企画展

「東北、きらめく名刀」展 開催中!

編集後記

今回の資料館だよりは、始めてとなる「登米懐古館」篇をお送りしました。日頃常設展示室では、たいへん希少価値の高い所蔵品を順次展示しております。

様々な機会をとらえて、それら名品を紹介していきたいと思っております。これから先懐古館が、登米伊達文化の発信とランドマークになっていくことを願っています。

佐藤



“みやぎの明治村”SNS 随時更新中です!